

日本小児理学療法学会ステートメント 2022

2023 年 5 月 16 日
一般社団法人 日本小児理学療法学会
副 理 事 長 中 徹

日本小児理学療法学会は、沿革を含めたステートメントを以下に表明する。

日本小児理学療法学会の沿革

一般社団法人小児理学療法学会は以下の沿革を有している。小児理学療法の学術活動は、従前は公益社団法人日本理学療法士協会の学術局の専門領域別研究部の中で取り組まれてきた。その活動を発展させるべく 2014 年 5 月に日本理学療法士学会の分科学会として小児理学療法学会が設立され活動を展開してきた。その後、学会法人化の機運が高まる中で 2021 年 4 月 1 日に一般社団法人日本小児理学療法学会が設立された。今日幅広く多様な学術活動を展開しており、日本学術会議協力学術研究団体を目指している。

日本小児理学療法学会の使命

すべてのこどもと家族の健康および社会参加による豊かな生活のために、ICF の概念を尊重した小児理学療法実践の礎となる学術活動の発展を使命とする。

日本小児理学療法学会の学術活動

使命を達成するために以下の活動を進める。

1. 学術大会やカンファレンス
2. 研究を行うための素地を養う教育・研修・交流
3. 評価と治療に関わる共通言語の制定
4. 理学療法ガイドラインの作成と更新
5. 学術活動のための基本的調査活動
6. 保健福祉に対する提案や提言および国民への啓発
7. 国内外の諸学会や団体および行政機関と連携・協働
8. 理学療法士の生涯教育コンテンツの開発と提供

日本小児理学療法学会の決意

学会は以下の意志を持って学術活動を進める。

1. すべての会員に情報を発信でき、会員の意見を聴ける会員満足度の高い学会
2. 歴史に敬意を表し、勇気ある振り返りで時代の要請に応じて自己変革できる学会
3. 世界をリードできる学会
4. 再生医療など医学の進歩に対応できる学会
5. こどもと家族のニーズと満足度および理学療法の継続性を常に振り返ることができる学会
6. 評価の対象と精度、治療の適応と効果を科学的に示すことができる学会
7. 公衆衛生へ寄与できる学会

日本小児理学療法学会ステートメント 2022

－補 遺－

補遺 1:日本小児理学療法学会のとらえる小児理学療法

1.小児理学療法は理学療法を基盤として、こどもと家族のニーズに応じた形ですべてのこどもの生涯発達と日常生活支援及びその家族の wellbeing(健康と幸せ)を援助する行為全般を指す。

2.その行為は、家庭生活を中心として、医療、福祉、教育、行政、レジャー、社会参加等の多くの場面で行われる。

3.以下の介入方法をこどもに合わせて組み合わせて提供する。

①運動療法・・・発達理論、運動学習理論、ダイナミックシステム理論等を基礎にし、こどもと家族が直面する生活課題の改善、発達支援、機能向上及び維持のための運動療法

②物理療法・・・機能的電気刺激などを含む

③装具療法・・・ロボットの利用を含む

④環境支援・・・改良器具・福祉用具・移動補助具などの活用、基礎的な環境整備の提案

⑤生活支援・・・学校生活、余暇活動、スポーツ参加にまつわる具体的提案

4.介入内容の説明と伝達を家族および関係者へ行い意識の共有を図る。

5.チームアプローチ・・・家族を含め職種の違いを超えた実質的な連携での問題解決。

補遺 2:日本小児理学療法学会が基盤とする理論とアプローチ体系

当学会が基盤とする理論体系については以下を基本とする。

①運動制御理論

②発達理論

③運動学習理論

④コーチング理論

当学会が基盤とするアプローチ体系は以下を基本とする。

① こども・家族中心のチームアプローチ

② 日常生活の文脈に基づく課題指向型アプローチ

③ 個人・課題・環境を考慮した生態学的アプローチ

④ 課題解決型アプローチ

⑤ 超職種チームアプローチ (Transdisciplinary Team Approach)

本ステートメントおよび補遺は、理事会の議を経て更新することができる